

2 2 大型トカゲ類〈トカゲ亜目、オオトカゲ科、オオトカゲ属〉

ア 和名：ハナブトオオトカゲ
英名：Crocodile monitor
学名：*Varanus salvadorii*

イ 和名：コモドオオトカゲ
英名：Komodo dragon
学名：*Varanus komodoensis*



【コモドオオトカゲ】

(1) 動物の特徴と同定

ア ハナブトオオトカゲ

分布：ニューギニア

特徴：体色は黒色で、頭部や胴には黄色の斑点が散在し、尾では横縞模様になる。吻端は丸く、鼻先は膨らんだように見える。尾は長く体長の2倍以上ある。そのため、全長が4m以上の個体も報告されており、全長では、コモドオオトカゲより大きくなる種類といわれているが、体形はスリムで、体重はずっと軽量。

全長：120～200cm 最大 4m

習性等：

- ・森林地帯に住む。餌を捜して林床を徘徊したり、川を泳いだりすることもあるが、長い尾を木に巻きつけ、四肢の鋭い爪を上手に使う木に登り、樹上で生活することが多い。現地では、木のワニと呼ばれている。
- ・他のオオトカゲ類と同様、先が二叉に分かれた細長い舌を持ち、これをヘビのように出し入れしてにおいを嗅ぐ。
- ・小型哺乳類、鳥やその卵やヒナ、爬虫類、両生類、昆虫などを食べる。
- ・細長い尾をムチのように激しく振って攻撃してくる。

イ コモドオオトカゲ

分布：インドネシア（コモド、リンチャ、パダール、フロレスなどの各島）

特徴：小さな個体は体に淡黄色の小さな斑点模様があるが、成体では一様に暗褐色になる。体や四肢は太く、他のオオトカゲ類と比較して頑強な体形をしている。頭部も幅が広く、吻端も丸い。尾は体長よりやや長い。雌より雄のほうが大きくなる。全長3mほどになり、体重も考慮すると世界最大のトカゲ。

全長：100～250cm、最大 300cm

体重：30～50kg、最大 150kg

習性等：

- ・乾燥した林や草原に住み、夜は穴の中などで過ごし、日中活動する。
- ・幼時はあまり太っていないので、よく木に登り、昆虫、ヤモリなどのトカゲ、鳥

の卵やヒナなどを食べる。成体になると地上で生活するようになり、あらゆる大きさの哺乳類、鳥類、爬虫類などを捕食し、ときには、スイギュウ、シカ、イノシシなどの大型の動物を襲うこともある。また、腐肉なども好んで食べ、共食いもする。

- ・上、下顎に平らな先の尖った小さな歯がある。この歯の後縁にはのこぎり状の小さなぎざぎざがあり、肉を切り裂くのに役立つ。歯の切れ味は刃物のように鋭いので、咬まれると危険。また、頑丈な尾をムチのように使うので、注意が必要。
- ・10～30個の卵を産む。
- ・飼育するとよく馴れる。飼育下で24年生きた記録がある。

(2) 保定方法とマイクロチップの埋込み

ア 保定の方法

A 器具を使用しない保定法

器具を使用しない保定は避ける。

B 器具を使用した保定法

全長50cmほどの大きさのトカゲであれば、玉網ですくい上げ、網を絞ってオオトカゲを動けなくして床面に押さえつけ、網の上から頭部をつかむ。

C 特に注意すべき事項

マイクロチップの埋込み処置は短時間で終了するため、原則的には麻酔は要らない。全て作業に当たり、保定者は皮手袋を装着する。

D 麻酔法

大きく成長して物理的な保定が不可能な場合、筋肉麻酔（メドトミジン 100 μ g/kg+ケタミン 5mg/kg）を用いる。投与が困難な場合は、吹き矢で投与する。30～60分でマイクロチップ埋込みができるほどに不動化する。覚醒に際しては、保温パットを使用し、体温の低下に気をつける。拮抗薬であるアチパメゾール 500 μ g/kg の投与後も覚醒効果は顕著でないが、術後2時間ほどで正常の反応に戻る。

イ マイクロチップの埋め込みの方法

A 埋込みの部位

鼠径部の皮下（左側）に埋込む。

B マイクロチップ埋め込みの実際

術部をイソジン綿か70%アルコール綿で消毒し、埋込み器の針を上記の皮下に穿刺しマイクロチップを埋込む。マイクロチップの脱落を防ぐために、皮膚の穿刺痕に外科用接着剤を塗布し、外用散剤を散布する。